

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策		学校関係者記入欄		
							評価	人数	評価	コメント	
未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	4	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が90%以上	C	生徒がこれからの社会の変化に臨機応変に対応していくために、本校ではキャリア教育を推進している。生徒は落ち着いた学校生活を送っており、積極的に活動している様子が様々な場面で見受けられる。昨年度実施できなかった1年生の移動教室、2年生の職場体験を実施することができた。来年度以降も、生徒が自己肯定感をもって将来を拓いていけるよう、多くの体験をさせたいと考える。	A	7	・「学校全体が落ち着いた雰囲気である」という話を校長先生から伺い、安心しました。 ・生徒は落ち着いた学校生活を送っていると考えています。 ・職場体験先で出会った生徒さんの挨拶がよくできていて嬉しかったです。 ・初中でも中学生がとてよく挨拶をしており、小学生にとって憧れの先輩たちとなっています。本年度、職場体験で小学校に来て学んだ4名がとて熱心に取り組んでいて、意識の高さを感じました。 ・職場体験で良い経験が得られていると思います。 ・ICTの導入に大きな成果が出ることを期待しています。	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	3	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が70%以上						「[将来の進路や生き方について考える機会がある。]」については生徒の肯定的な回答が81%、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」については84%となった。体験活動を通じて、さらにこの数値を高めていきたい。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4: 設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3: 80%以上の正規教員が週1回以上活用し 2: 60%以上の正規教員が週1回以上活用し 1: 60%未満であった。	3	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が40%以上						「[将来の進路や生き方について考える機会がある。]」については生徒の肯定的な回答が81%、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」については84%となった。体験活動を通じて、さらにこの数値を高めていきたい。
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	3	「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」のアンケートの生徒の回答が40%以上						「[将来の進路や生き方について考える機会がある。]」については生徒の肯定的な回答が81%、「学校全体が落ち着いた雰囲気、自分は伸び伸びと生活している。」については84%となった。体験活動を通じて、さらにこの数値を高めていきたい。
学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	2	「授業が分かりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	C	「授業がわかりやすく、充実している。」のアンケートに対する生徒の肯定的な回答は生徒が87%、保護者が92%であった。前年度の結果と比べ3%程度下がったが、高水準であった。今後も今までどおり、生徒理解に努め、基礎、基本の徹底、個に応じた指導を行う。	A	7	・ICT活用指定校として多様な授業実践を深められていることに、今後も大きな期待をしています。 ・タブレットの使用など、試行錯誤しながら進めてくださっているのも良い結果につながっていると思う。 ・授業観望で見た英語の授業のテンポに大変驚きました。研修、工夫の賜物だと思います。また、レベル別のクラスも励みや自信になるようです。 ・先生の熱意、生徒のやる気が感じられる。 ・自分が好きなことが何であるか、気付くことができるようになる事を期待しています。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4: 学期に2～3回知らせた。 3: 学期毎に知らせた。 2: 年度間に1回は知らせた。 1: お知らせできなかった。	2	「授業が分かりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が70%以上						本校は若手の教員が多いが、外部の研修や授業観望等に積極的に参加する意欲も持っている。研修等で得た知識や技法を校内で共有し、さらに教員全体の指導力を向上させていく。
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4: 対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけ 3: 80%以上の教員が働きかけた。 2: 60%以上の教員が働きかけた。 1: 60%未満であった。	2	「授業が分かりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%以上						今年度はすべての教科でICT機器を使った授業を実施した。教科や学年間で資料や教材等の情報を共有し、さらなる活用を推進していく。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	3	「授業が分かりやすく、充実している。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満						また、授業規律の徹底と生徒の習熟度の的確な把握、精度の高い授業計画により、生徒の学習意欲の向上と、基礎学力の定着に努める。
豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をほぐします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	3	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	C	本校は「キャリア教育推進」をテーマとして、教育活動を展開し、生徒の自己肯定感の伸長を目標として教師と生徒の関係づくりを進めている。管理職と生徒との面談からも本校の特徴の一つとして教員と生徒の信頼関係の深さを知ることができた。生徒の肯定的な回答を見たとき、「学校における自分の役割があり、居場所がある」と感じている。」が83%、「自分は学校のきまりを守って学校生活を送っている。」が91%、「教育活動全体で将来の生き方について考える機会がある。」が81%と前年度より3%低い数値となったが高水準であった。改善策として、学習活動、生徒会活動、部活動を中心とした生徒の自主性を育てる教育活動を積極的に取り入れ、様々な活動を通じて、生徒の自己有用感を高めることが重要と考える。	A	7	・学校にも自分の居場所があるという事は大切なことで、これからも宜しくお願いします。 ・「学校が大好きだ」というのが何より強いと思えます。願わくば、全てのお子さんがそういう気持ちになると思います。 ・不登校生徒の問題について、努力改善目標としているという事は、適切な学校評価をしている証拠と考えられます。 ・不登校生徒の問題を考える時、本人のみではなく、保護者、地域等と連携して考える事も必要である。 ・ルールを守ることが自然体でできているように感じます。 ・先生と生徒の対話を通じて、校則等を考えていってほしい。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が70%以上						一方、不登校生徒の対応は大きな課題である。スクールカウンセラーによる面談をもとに、適応指導教室や教育センター等と今後とも効果的な連携をすすめて、状況の改善に努める。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答し 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	3	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が40%未満						「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が40%未満
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答し 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3: 必要な事案に対しておおむね会議を実施し 2: 必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3	「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が40%未満						「学校には自分の役割があり、居場所がある。」、「自分は、学校の決まりを守って学校生活を過ごしている。」、「先生は、生徒の悩みや相談ごとを聞いてくれる。」の各アンケートで生徒・保護者の回答が40%未満
体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上と、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	3	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が90%以上	C	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が90%以上	A	6	・学校サイトにタイムリーな情報を公開して、保護者の理解を深めていることを、中学から兄弟がいる小学校保護者も高く評価していた。 ・コロナの影響が大きいと思われるので、with コロナに慣れてほしいと思えます。 ・給食は、是非保護者や地域の方ももう少し上がっていただきたいと思っています。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	3	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が70%以上						また、本校では50%の生徒が運動系の部活動に所属しているが、来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を遵守した上で、十分な活動を保証していく。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	3	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が40%以上						「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満
		部活動の充実を図り、体力向上と心身の健康を促進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	3	「基本的な生活習慣を守り、心身の健康や体力の向上に努めている。」のアンケートで、生徒・保護者の回答が40%未満						「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満
魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	3	「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	C	「本校に入学して良かった。」は生徒・保護者とも90%をこえる肯定的な回答を得ることができた。「教員は、授業の工夫や改善を進めている。」が87%と高水準であった。また「学校は外部から学習ボランティア等を導入したり、図書館等の効果的な活用を行っている等、教育環境の整備を進めている。」が81%と、前年度より4%数値が増加した。来年度も引き続き感染症対策を行いながら、地域支援本部やPTAの支援、協力を得ながら、共に生徒を育成していきたい。	A	8	・90%をこえる生徒が本校に入学して良かったというのは素晴らしいことだと思います。 ・毎日が楽しそうです。 ・矢口地域の極めて高い学校への愛着は、小中を問わず本校に誇りを感じています。 ・評価が良いと、良い環境ができていこうと思えます。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教師が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が70%以上						また、今年度は道徳教育の充実とキャリア教育の視点に立った授業力の向上に向けて、外部講師を招聘しての研修会を実施した。次年度も同様の研修を行い、教員の指導力の向上に努める。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。 4: 月1回以上行った。 3: 学期に2～3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満						「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2～3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	2	「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満						「本校に入学して良かった。」、「授業の工夫や改善が進められている。」、「外部の学習ボランティアや、図書館を効果的に活用している。」などのアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満
なご学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2～3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	C	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が90%以上	A	7	・これだけ積極的に学校サイトを更新している中学校は全国にも多くない。安方の努力を日々見るにつけ、やはり「3」評価ではなく「4」評価の方がいいかと思えます。 ・今年度は地域と学校の関わりがほとんどなかったのが残念でした。「学校だより」や「お知らせ」は受け取っていません。早く地域にお声のかかる時があるとありがたいです。 ・開かれた学校を目指して頑張ってください。 ・コロナの影響が大きく、なかなか密な活動ができないのが残念です。 ・なかなか地域公開に繋がらないのが残念ですが、今は仕方ないことだと思えます。 ・コロナ禍は乗り越えて、もう少し工夫できないか、PTAでも考えたいところです。		
		学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	4: 学期に2～3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4						「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が70%以上	今年度は、感染症対策を十分に果たした上で、年3回の学校公開、運動会やアンチフェスティバルといった学校行事に、保護者や参観ができていく計画した。来年度も、参観方法の工夫、内容の吟味をした上で実施していく。
		保護者や地域とともに地域行事等に参加させ、相互連携してボランティアマインドを養う。	4: 学期に2～3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	2						「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満	「学校は地域・保護者と協働して生徒の健全育成を行っている。」のアンケートで生徒・保護者の回答が40%未満

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。